

研究主題 「人権尊重の視点に立った仲間づくり」



本校は、更正小学校、第五吾嬬小学校、木下川小学校の3校が統合されてできた学校であり、学区域には地理的・歴史的に同和問題を内包している地域もある。

統合前の3校が培ってきた人権尊重の理念と、研究の成果を引き継ぎ、同和問題の解消につながる力となる「差別を見抜き」「差別を許さない」という資質を育てるため、地域が抱える人権課題を取り上げ人権教育を進めている。

研究主題を「人権尊重の視点に立った仲間づくり」とし、目指す児童像を低・中・高学年ごとに設定し、研究を深めてきた。

低学年 「 自他のよさや違いに気付き、関わろうとする子 」

中学年 「 自他のよさや違いを知り、協力できる子 」

高学年 「 自他のよさや違いを認め合い、公正・公平な態度で接する子 」

墨田区立八広小学校

〒131-0041 東京都墨田区八広 5-12-15

電話:03-3614-6911 ファクシミリ:03-3614-6916



八広小 HP

研究概要

本校は皮革産業、油脂産業などが古くから発展した地域に所在しており、開校以来「東京都教育委員会人権尊重教育推進校」として指定を受けてきた学校である。そこで、地域が抱える3点の課題を中心に本校の人権課題として捉え、研究に取り組んできた。第一は、地域に根差した「皮革産業及び皮革関連産業に関する取組」、第二は、地域に住む在日外国人との交流を通じた「外国人との関わりに関する取組」、第三は、近隣校である東京都立墨田特別支援学校や地域に住む障害のある方との交流を通じた「障害者との関わりに関する取組」である。様々な立場の方との交流活動や友達との関わり合いから、他者を広く受け入れることや自分が受け入れられる体験を通して、自尊感情が高まり温かな人間関係が築けると考え、研究主題を「人権尊重の視点に立った仲間づくり」とした。

仲間づくり

1 皮革産業及び皮革関連産業に関わる取組

2 外国人との関わりに関する取組

3 障害者との関わりに関する取組

各教科、教科外の様々な教育活動

昨年度の研究では、6年間を通して育てたい人権教育を通じて育てたい資質・能力について教員が共通理解をした上で研究を進めた。今年度は、生活科・総合的な学習の時間の学習指導要領の目標や内容に沿った学習活動になるように単元計画を工夫して研究を進めた。

<p>関連法令等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法・教育基本法 ・学習指導要領 ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 ・人権教育・啓発に関する基本計画 ・東京都人権施策推進指針、東京都教育委員会教育目標、基本方針等 ・墨田区教育委員会教育目標 ・人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】 ・児童の権利に関する条約 	<p>学校の教育目標</p> <p>人間尊重の精神を基調として、国際社会において豊かな文化・社会を創造する、心身ともに健全で、人間性豊かな児童の育成を目指して、次の教育目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自他の生命を尊重し、お互いに認め助け合う態度を育てる。 ○すすんで課題に取り組み、的確に判断し、創造的に解決する能力の基礎を育てる。 ○心と体を健やかに育み、社会に貢献しようとする心情と態度を育てる。 <p>教育目標<やひろの子> 「やさしい心、ひろがる学び、のびのび育つ八広の子」</p>	<p>地域の願い・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同和問題の根本的解決と偏見や差別を許さない社会の実現 ・多民族・多文化共生社会の実現 ・障害者に対する理解と認識を深め、共に生きようとする社会の実現 ・男女平等参画社会の実現 ・児童への虐待、高齢者、HIV感染者・ハンセン病患者等、犯罪被害者やその家族、LGBTQ+に関する偏見や差別の解消と人権課題を追究する社会の実現
<p>教職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解 ・人権教育授業研究 ・人権教育オリエンテーション ・フィールドワーク ・講演会 ・人権教育推進連絡協議会 ・全国人権教育研究協議会 	<p>人権教育の目標</p> <p>自分自身や地域、親の仕事に誇りをもち、差別を見抜き、差別を許さない仲間づくりを目指す。</p> <p>「めざす児童像」 低 自他のよさや違いに気付き、関わろうとする子 中 自他のよさや違いを知り、協力できる子 高 自他のよさや違いを認め合い、公正・公平な態度で接する子</p> <p>「育てたい資質・能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相違を認め、対等で豊かな人間性 ・偏見や差別などの人権課題の理解 ・自他の価値を尊重する態度 	<p>保護者・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、学校公開 ・学校便り、学年便り ・学校運営連絡協議会 ・ホームページ ・幼保小中一貫教育、オリンピック・パラリンピック教育等を通して、保護者、地域との連携を深め、人権教育の普及・啓発に努める。

研究主題 人権尊重の視点に立った仲間づくり

教育活動全体を通じた人権教育の重点

各教科	特別の教科 道徳	特別活動	総合的な学習の時間
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童が目標を達成することができるように、一人一人の実態に応じて、指導内容や方法、教材等の工夫をし、人権尊重の理念を正しく理解できるよう計画的に指導する。 ・互いに自分の思いや考えを伝え合い、認め合う心情や態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重する。 ・相手の立場になって考えることができ、相手を理解し、尊重する。 ・身近な生活の中にある様々な偏見や差別に気付かせ、信頼、友情の心情を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権作文集会」に向けて、互いの人権を守るためにどうしなければならぬかを考え合い、協力して創造的な活動を工夫する。 ・「人権作文集会」を開催し、人権感覚を高め合い、互いに認め支え合う。 ・なかよし班活動や集会活動、あいさつ運動、各行事等を通して互いによりよく関わる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同和問題をはじめ、様々な人権課題について、あらゆる偏見や差別をなくしていく取組を通して、互いに支え合える関係を築き、自己の生き方を考える。 ・仲間と協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

一の柱 皮革産業及び皮革関連産業に関わる取組

<ねらい>

「皮革産業及び皮革関連産業についての認識を深め、親しみをもつ。差別について考え、自己の生き方を考えていく。」

- 1年 命の大切さや牛の使われ方を知る。革に親しむ。革の小物づくり。(学級活動・生活科)
 - 2年 町探検を通して、東墨田には皮革工場等があることに気付く。(生活科)
 - 3年 皮革産業について親しみをもち、地域の産業について興味をもつ。皮革工場や産業・教育資料室きねがわの見学、都立皮革技術センター見学、染色体験、太鼓づくり、小物づくり等(総合的な学習の時間等)
 - 4年 皮革関連産業について知り、資源の活用や環境への影響に気付く。(社会・総合的な学習の時間)
 - 5年 食肉産業に携わる人の思いを知り、正しい認識をもつ。(総合的な学習の時間)
卒業児童への革のコサージュの贈り物づくり(家庭科)
 - 6年 差別と文化の歴史、また、差別と闘った人々の歴史を知る。(社会科・総合的な学習の時間)
卒業制作 革工作(総合的な学習の時間)
- 1, 2, 3, 4, 6年 革工芸・小物づくり(生活科、総合的な学習の時間)

1年 生活科・特別活動・道徳

「いのちをいただく」「革の小物づくり」

【人権教育の視点】

- ・ 絵本「いただきます」や「もーおーうしです」を読んだり、給食の中に隠れている命を見付けたりする活動を通して、生物の命をいただくことで、生活が豊かになることを知り、命を大切にしようとする態度を育む。

児童のワークシートから給食を残さずに食べたい。
命に感謝して、自分の命を大切にしていきたい。



2年 生活科

「町探検」

【人権教育の視点】

- ・ 町のよさについて考えることを通して、身近な人々と自分たちの生活との関わりに気付かせるとともに、身近に皮革関連工場があることを知ることによって地域の人々や様々な場所に親しみをもたせ、生活を豊かにしようとする態度を育む。



3年 総合的な学習の時間

「皮から革へ」

【人権教育の視点】

- ・ 地域の皮革工場や都立皮革技術センター、産業・教育資料室きねがわの見学を通して、「皮から革へ」の工程を学んだり、工場で働く人たちの思いや願いを知ったりしながら、地域の一員として愛着や誇りをもとうとする態度を育む。

児童のワークシートから皮が革(製品)になるまでには、様々な工程があることが分かった。
皮工場で働く人たちは、地域の産業として、誇りをもって仕事をしている。



5年 総合的な学習の時間

「食肉市場で働く人々」

【人権教育の視点】

- ・ 食肉産業の見学や従事している人の話を聞くことを通して、そこに携わっている人々の技術や工夫について理解を深めるとともに、職業に対する偏見や差別に気付かせ、自分たちの問題として捉え主体的に解決しようとする態度を養う。

児童のワークシートから食肉市場で働く人から話を聞いたら、自分の思い込みに気が付き、何か恥ずかしく思った。正しく知ることができて良かった。



二の柱 外国人との関わりに関する取組

<ねらい>

「外国の文化や習慣に触れ、身近な外国とつながりがある人との交流を通して、理解を深める。」

- 1年 いろいろな国の国旗や場所、名産品を知る。(生活科)
- 2年 外国の遊びを知り、体験を通してその国々に興味をもつ。(生活科)
- 3年 外国の衣・食・住を中心とした異文化を知る。(総合的な学習の時間)
- 4年 日本と世界各国とのつながりを認識し、諸外国の文化や生活について調べる。(外国語活動)
- 5年 地域に暮らす外国人の方との交流を通して、日本と異文化の相違点と類似点のよさに気づき、よりよいコミュニケーションのとり方を考える。(総合的な学習の時間)
- 6年 様々な国とのつながりを調べ、理解を深める。(社会科)
人権課題「外国人」についての現状を理解し、自分たちができることについて考えを深める。(総合的な学習の時間)

2年 生活科

「あそびのせかいをひろげよう」

【人権教育の視点】

- 日本の遊びや外国の遊びを通して、互いの違いやよさに気付くとともに、身近な人々とすすんで交流し、自らの生活を豊かにしようとする態度を育む。



児童のワークシートから

住んでいる国が違ったり、文化が違ったりしても日本の遊びと同じような遊びがあって面白いなと思いました。投壺の遊びのときに〇〇さんがとても上手にできていて、すごいなと思いました。次に投壺をやるときは〇〇さんを真似して上手にできるようになりたいです。

6年 総合的な学習の時間

「みんなの笑顔のために ～今、私たちにできること～」

【人権教育の視点】

- これまでの人権学習を振り返り、探究的な学習を進めていく中で、学んだことを整理・分析し、まとめたり表現したりする活動を通して、様々な人権課題に対する現状を理解するとともに、自分の生活と結び付け、今の自分には何ができるのかを考える力を育む。
- 個々の課題から学んだことをまとめたり表現したりする活動を通して、他者の意見を受け止め、自分の意見と比べながら、伝えようとする態度を養う。

児童のワークシートから

たくさんのグループの発表を聞いて、世界では、人権が守られずに苦しんでいる人が多くいることが分かりました。勝手な思い込みをせず、現状を正しく理解することが大切だと思います。



三の柱 障害者との関わりに関する取組

<ねらい>

「障害のある人に対する差別意識をなくし、互いに人格や個性を認め合う。」

- 1年 東京都立墨田特別支援学校の教員の講話を聞くことで、東京都立墨田特別支援学校に通う子供たちのことを知る。(生活科)
- 2年 オンラインで手話を用いた歌を歌ったり、一緒にゲームをしたりする活動を通して、楽しく交流する。(生活科)
- 4年 白杖や車いすなどの体験活動を通して、障害のある人への理解を深める。また、視覚障害・聴覚障害のある人や、パラリンピアンとの交流を通して、障害があること以外は自分たちと変わらないと知る。
(総合的な学習の時間)
- 5年 これまでの交流や体験活動を生かして、協働してよりよい集会を計画し、互いに楽しめるゲームや出し物を通して理解し合う。(総合的な学習の時間)
- 6年 人権課題「障害者」について様々な法律や施策があることを知り、自分たちができることについて考えを深める。(総合的な学習の時間)

2年 生活科

「特別支援学校との交流」

【人権教育の視点】

- ・ 東京都立墨田特別支援学校との交流を通して、様々な人々とふれあい、関わることで、自他の違いやよさにふれる態度を養う。
- ・ オンラインで一緒に手話を用いた歌を歌ったり、ゲームをしたりする活動を通して、楽しく主体的に活動できる態度を養う。



車いすバスケットを疑似体験



視覚に障害がある方との交流

4年 総合的な学習の時間 「共に生きる」

【人権教育の視点】

- ・ 障害がある方との交流や体験等の活動を通して、障害がある方の生活について理解を深めるとともに自分たちの生き方について考え、共生社会を実現しようとする態度を育む。

児童のワークシートから

- ・ 様々な工夫によって、自分たちと同じ生活をしている。
- ・ 障害があると困ることがあるかと思っただ、楽しく明るく元気に話していて、自分も嬉しい気持ちになった。
- ・ 「共に生きる」の学習から、障害がある方だけでなくお互いの意見や考えを受け止めることが大切だと気付いた。

仲間づくり

<ねらい>

「他者と支え合って生活できるような仲間をつくり、互いによさを認め合い、高め合う気持ちを育む。」

「仲間づくり」は、各教科、特別の教科 道徳、特別活動（運動会、音楽会などの行事、全校集会、異学年での縦割りグループで形成したなかよし班活動）等、様々な教育活動の中で全校児童、全教職員で取り組んでいる。

- ・人権作文集会（12月）※人権週間の期間に実施
自分の人権についての考えを深めるとともに、友達の作文を聞くことで、他の人が大切にしている人権についても考えを深める。

〈児童の作文の内容〉

- ・自分と友達との関わり
- ・障害のある人との出会い
- ・家族との関わりについて
- ・八広小の人権学習を振り返って 等



人権作文集会

（人権作文集会での発表作品より抜粋）

無意識の偏見について

6年児童

6年生の学習では、男女差別、人種差別について調べました。その学習のなかで、自分では気付かず、無意識に偏見の目で見ていることがあることに気が付きました。私たちのグループは人種差別について調べましたが、無意識の偏見は人種問題だけではなく、男女など、さまざまな差別につながると思います。食肉センターの方に対しても無意識の偏見があると思います。無意識の偏見は私のなかで当たり前のことになっていました。なので、自分の力だけで無意識の偏見に気が付くことは難しいと思います。だけど、みんなで協力して気付くことができたのでよかったです。

差別は一人がすると、つられてみんなもしてしまいます。でも一人がやめるとみんなもやめます。私は差別に気が付いてやめられる、その一人目になりたいです。男女、人種、国籍、仕事など差別はさまざまです。その一つ一つを減らせるように、なくせるようにしていきたいです。思い込みは簡単にはやめられません。なので、今気付くことができた私たちがより多くの人たちに伝えたいと思います。

今回私は、男女問題、人種差別についての学習を通して無意識の偏見があることに気が付きました。なので、これからは自分が当たり前だと思っていることももう一度調べ直したり、考え直したりしていきたいです。また、偏見による差別を目撃したら、一番最初に注意できるようになりたいです。そして、自分もしないようにこれまでの総合の学習で学んできたことも、もう一度調べて、そのなかでさらに気になったことも調べ、偏見を減らしていきたいです。

人は誰でも心の中で勝手に決めつけたり、偏った見方をしたりしてしまいます。それを防ぐためには、相手を知ろうとする気持ちや正しく理解しようとする姿勢が大切です。皆さんが思いやりのある行動をとれば、差別や偏見が少しずつ減っていくと思います。（担任のコメントより抜粋）

研究に関わる単元計画

	1の柱	2の柱	3の柱	仲間づくり (すべての教育活動を通して)
	皮革産業及び皮革関連産業 に関わる取組	外国人との関わり に関する取組	障害者との関わり に関する取組	
1年	「いのちをいただく」 (生活科・特別活動・道徳) 「革の小物づくり」 (特別活動)	「せかいのいろいろなくに」 (生活科)	「とくべつしえん学校ってどん なところ?」 (生活科)	「昔遊び」(生活科) 「学校たんけん」(生活科) 「人権作文集会」(行事)
2年		「遊びの世界を広げよう」 (生活科)	「特別支援学校との交流」 (生活科)	「大きくなったね」(生活科) 「遊びの世界を広げよう」(生活科) 「人権作文集会」(行事) 「えのぐじま」(図画工作科)
	「すてきはっ見!わたしたちの町」 *三本柱を総括的に扱う。(生活科)			
3年	「生皮で太鼓を作ろう」 (総合的な学習の時間) 「皮から革へ」 (総合的な学習の時間)	「たんけんしよう みんなの地球」 (総合的な学習の時間)		「人権作文集会」(行事) 「友だちのよいところを見つけよう」 (学級活動) 「係の活動について考えよう」 (学級活動)
4年	「環境学習」 (総合的な学習の時間) 「革細工」 (図画工作科)	「自分のお気に入りの場所を しょうかいしよう」(外国語活 動)		「10才祝い式」 (総合的な学習の時間) 「体の発育と健康」(体育科) 「人権作文集会」(行事) 「2けたでわるわり算」(算数科)
	「共に生きる」(総合的な学習の時間)			
5年	「革細工～コサージュ作り～」 (家庭科)	「地域に暮らす外国人との交 流」(総合的な学習の時間) 「音楽の旅」(音楽科)	「特別支援学校との交流」 (総合的な学習の時間)	「那須甲子移動教室に向けて」(総 合的な学習の時間) 「6年生を送る会の準備をしよう」 (総合的な学習の時間) 「人権作文集会」(行事)
	「多様性って何だろう?食肉市場で働く人々」 *三本柱を総括的に扱う。(総合的な学習の時間)			
6年	「幕府の政治と人々の暮らし」 (社会科) 「新しい時代の幕開け」 (社会科) 「憲法とわたしたちの暮らし」 (社会科) 「差別と闘った人々の歴史」 (総合的な学習の時間)	「日本とつながりの深い国々」 (社会科) 「世界の人々とともに生きる」 (社会科)		「最高学年として1年生と交流しよう」 (総合的な学習の時間) 「日光移動学習教室を伝えよう」 (総合的な学習の時間) 「感謝の気持ちを伝えよう」(総合 的な学習の時間) 「人権作文集会」(行事) 「こんだてを工夫して」(家庭科)
	「みんなの笑顔のために ～今、私たちにできること～」 *三本柱を総括的に扱う。(総合的な学習の時間)			

令和5年度研究授業実践

月日	学級	教科	単元名
6月26日	4年3組	算数科	「2けたでわるわり算」
7月13日	2年2組	生活科	「遊びの世界を広げよう」
9月12日	4年	総合的な学習の時間	「共に生きる」
9月27日	3年2組	総合的な学習の時間	「皮から革へ」
10月4日	1年1組	特別活動	「いのちをいただく」
11月14日	6年	総合的な学習の時間	「みんなの笑顔のために ～今、私たちにできること～」
11月29日	5年1組	総合的な学習の時間	「多様性って何だろう? 食肉市場で働く人々」

人権教育の成果と課題

(1) 成果

- 生活科・総合的な学習の時間の学習指導要領の目標や内容に沿った学習活動となるように指導計画を工夫した。探究的な学習の過程において、児童が主体的・協働的に学習する姿が見られた。
- 各教科における人権教育の視点を明らかにして授業研究を行ったことにより、個別的な視点と普遍的な視点からの取組について、教科のねらいを達成しながら、人権教育を通じて育てたい資質・能力を育むことができた。
- 各学年で、めざす児童像や学習計画の進め方について共通理解を図ったことで、研究の方向性をそろえることができた。また、全学年が学習過程の分かる掲示物を作成したことで、全教職員が各学年の実践の理解を深めることができた。
- 全学年が児童の変容を見取るために、学習前と後でアンケートをとり、児童の実態を把握した。学習の過程でポートフォリオを活用し、人権課題をより身近に感じさせることができた。

(2) 課題

- アンケートの結果から、相手の考えを受け止めた上で、自分の考えを話すことが苦手な児童が全校児童の23%いることが課題である。他者の意見と比較する時間を意図的に設けていく。
- 「偏見・差別」などの個別的な視点からの取組については、どの教科・領域に当てはまるか検討しながら学習計画を立てていく。
- 3本の柱を柔軟に捉え、社会状況の変化に応じて新たな人権問題にも対応していけるような研究の内容にしていく。

御指導いただいた講師の皆様

元東京都小学校生活科・総合的な学習の時間 教育研究会会長	水谷 光一 様
墨田区教育委員会事務局指導室 統括指導主事	田畑 達也 様
産業・教育資料室「きねがわ」室長	岩田 明夫 様
地域協力者	北川 京子 様
元東京都中央卸売市場食肉市場職員	高城 順 様

研究に協力をしていただいた機関

東京都中央卸売市場食肉市場	東京都立皮革技術センター
産業・教育資料室「きねがわ」	東京都立墨田特別支援学校
すみだボランティアセンター	すみだ多文化共生交流会

研究に携わった教職員

【校長】 勝田 光徳	【副校長】 檀特 明子	【研究推進委員長】 内野 雄			
【1年】 石井 亜友美	○糠信 花恵	大塚 雅一	宮本 妙子		
【2年】 ○門馬 弘樹	山本 夏美	江橋 歩	朝日 亜希子		
【3年】 平島 奈々恵	小用 圭太	○中島 慶哉	池田 満		
【4年】 蒔田 智子	和山 桃子	○薄井 優			
【5年】 小松崎 夏美	○山口 亮介	山村 美英			
【6年】 ○内野 雄	佐々木 芽紅	山本 拓馬			
【音楽】 稲垣 侑希乃	【図工】 倉橋 琴子	【算数少人数】 ○山崎 めぐみ			
【家庭科】 ○中野 千鶴	【養護教諭】 森谷 奈美	【栄養士】 佐藤 綾香			
【事務補助】 為我井 由佳	丸山 明美	布浦 孝子	【特別支援教室専門員】 保科 敏彦		
【学校支援指導員】 矢代 洋子	古越 好江				
【スクールカウンセラー】 山本 牧子	石井 あさか				
【講師】 廣瀬 久仁子	松下 洋一	春山 哲也	奈良 佳子	小林 恵美	榎 花恋

※○…研究推進委員